

Newsletter No. 9

Maxillofacial Prosthetics

発行人 後藤昌昭

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

新理事長・委員長 活動所信

日本学顎面補綴学会第7代理事長に選出された後藤昌昭先生の所信と学会活動を牽引される各委員会の活動方針を紹介いたします。

新理事長挨拶



後藤 昌昭 教授

佐賀大学医学部

歯科口腔外科学講座

平成21年1月より学会員が新たな構成となりました。若い評議員

の先生にも理事として参加していただき、学会の更なる活性化が図れるものと考えております。本年4月には日本歯科医学会に認定分科会として加入が認められましたことは、これまでの先輩諸先生方のたゆまぬ働きかけと、会員の皆様の診療ならびに研究活動が認められたものと深く感謝申し上げます。

しかしながら、顎顔面補綴を取り巻く状況は極めて厳しく、平成19年秋の先進医療専門家会議による見解によれば、顎顔面補綴に関しましては施設基準を見直し2年後までに症例が増えな

ければ廃止するとなっております。本年がその2年後にあたります。顎顔面補綴が先進医療として認められず、保健へも導入されないとなると、X線検査、投薬など顎顔面補綴に伴うすべての医療行為が自費負担となり、患者の経済的負担は極めて大きくなります。保健への導入が最も望ましいのですが、せめて先進医療として承認されれば、保健診療との併用が可能です。顎顔面補綴の症例数を飛躍的に増加させることは不可能ですが、顎顔面補綴が先進医療として廃止されないよう学会としてあらゆる方面へ働きかけていく必要があります。また、これまで蓄積された顎顔面補綴に関する多くの文献をもとにガイドラインの作成も重要であると考えております。

幸にも、平成20年度日本歯科医学会プロジェクト研究におきまして、“わが国における顎顔面補綴治療の現状分析と診療ガイドラインの作成”が採択されました。現在、本学会員の10名の先生にガイドライン作成委員になっていただき、作業を進めているところです。進捗状況につきましては、学会雑誌やニュースレターを通じて会員の皆様に報告していく予定です。

日本における学際的な顎顔面補綴治療ならびに学会活動は世界的にも極めて優れたものであります。われわれの活動が一般社会に認知されるように地道な活動を続けていかねばならないと考えます。

各委員会メンバー紹介

編集委員会



委員長 久保吉廣
(徳島大学准教授)

今期も編集委員長を引き続いてやらせて頂くことになりました。新しい編集委員として、口腔外

科系では横尾 聰先生（群馬大学医学部歯科口腔外科）、補綴歯科系から山森徹雄先生（奥羽大学歯学部補綴歯科）に加わって頂きました。留任の編集委員は、口腔外科系では井原功一郎先生、佐渡忠司先生、館村 卓先生、補綴歯科系では大貫昌理先生、尾澤昌悟先生、隅田由香先生です。前回からの口腔外科系4名、補綴歯科系4名という編集委員の構成で編集作業を進めていきたいと考えております。また編集幹事には東京医科歯科大学の乙丸貴史先生に引き続いでお願いしました。

学会を盛り上げるためにも多数の論文投稿をお願いしたいのですが、学会もたくさんあり、それぞれの学会も論文投稿が少なくなってきたと聞いております。また大学においてもいろいろな雑用（？）が多くなり、本来の臨床、教育、研究に割く時間が少し少なくなってきた感じがします。学会誌の充実は学会活動のバロメータと考えておりますので、会員各位におかれましては学会発表した論文は速やかに学会誌へ投稿されることを切にお願い申し上げます。

用語検討委員会

委員長：山森徹雄（奥羽大学教授）
委 員：井原功一郎（伊東歯科）、隅田由香（東京医科歯科大）、野村隆祥（野村歯科医院、鶴見大）、松山美和（九州大）、水城春美（岩手医科大）



顎顔面補綴治療には多領域にわたる知識や技術が必要とされ、専門領域の異なるスタッフとの共同作業が多くなる傾向があります。活動する分野によって、用語やその使用法が異なる場合がありますが、顎顔面補綴学の発展のためには、これらの統一が非常に重要であることから、本学会における用語検討委員会の重要性の大きさを感じております。

前期までの用語検討委員会は、歴代の委員長を中心として委員各位のご努力により顎顔面補綴関連の用語をまとめられ、「顎顔面補綴専門用語解説」として顎顔面補綴29巻に掲載されております。今期の用語検討委員会の活動としては、まず編纂後約3年を経過した「顎顔面補綴専門用語解説」を再度見直し、掲載用語や記載内容のアップデートが必要と思われる事項に対応する予定です。また本学会の活動を活性化するためには、関連領域で活躍する様々な方たちを本学会の輪に取り込む必要があります。関連する他学会の用語との整合性が求められます。具体的には日本口腔外科学会、日本補綴歯科学会、日本口腔インプラント学会、顎変形症学会など歯科領域の専門学会や、歯科技工、歯科衛生指導、言語聴覚療法などの関連領域における用語を検索し整合性獲得に向けて活動いたします。さらに顎顔面補綴関連を中心として新規に掲載する用語を検討する予定です。

委員各位、会員の皆様のご協力を仰ぎながら今期の活動を行ってゆきたいと考えております。顎顔面補綴に関する用語や用語検討委員会の活動に

関しまして、ご意見などございましたら是非お寄せくださいますようお願いいたします。

学術委員会

委員長：沖本公繪（九州大学准教授）

委 員：小野高裕（大阪大学），館村 卓（大阪大学），野村隆祥（野村歯科医院），松山 美和（九州大学），向山 仁（横浜市立みなと赤十字病院）

幹 事：諸井亮司（九州大学）



学術委員会の主な活動は、「優秀論文賞の審査・選考」と「教育研修会の開催」です。優秀論文賞は本学会が目指している領域における学問と技術の発展・充実に寄与する優れた学術論文の著者に与えられます。当該年度に顎顔面補綴誌に掲載された論文を、委員全員で審査・得点化し、上位2編から優秀論文賞1編を再審査で選出します。多数の投稿論文のなかから選考できることを願っています。

平成7年に第1回が開催され今回で第14回を迎える教育研修会は、将来の顎顔面補綴治療を担う若手研究者育成の目的と、顎顔面補綴に関する基本的な知識や治療法・再建法などの紹介から始まり、回を重ねるごとに最新の治療法の紹介や、テーマに対する問題点の抽出等の役割も加味され、経験の多寡によらず全会員の質向上の責務を担うように役割が拡大しつつあります。

第14回教育研修会では、これまでの研修会をいつたん総括する意味も含め、前回から引き続き、顎顔面補綴の変遷をテーマに企画しました。顎顔面補綴治療の流れを振り返り、治療概念や他領域との相互関係の変化も含めて、今後の展開について講師とともに参加者全員で検討し、標準治療概念と今後の課題に対する指針を求めていきたいと思っています。

国際交流委員会

委員長：尾澤昌悟（愛知学院大学准教授）

委 員：菅井敏郎（菅井歯科口腔インプラントセンター），武部 純（岩手医大），谷口 尚（東京医歯大），松山美和（九州大），向山 仁（横浜市立みなと赤十字病院）



今年度より谷口前委員長から国際交流委員会を引き継ぐことになりました。本委員会の主な活動は、ISMR（国際顎顔面リハビリテーション学会）との連携協力を行うとともに、諸外国の顎顔面補綴関連学会との交流を行うものです。既に谷口前委員長のもと、本学会はISMRの団体会員としての契約が結ばれており、その詳細は学会誌巻末に英文と和文で掲載されています。ISMRとの連携により、会員の皆様に海外の顎顔面補綴関連学会の情報をお送りするとともに、学会参加費の割引や我々の学会からの情報発信も容易になりました。この規約に基づき、昨年タイのバンコクで開催された第8回ISMR学会では、本学会の後藤理事長が基調講演者（Key note）として、そして私がPrincipal Presenterとして発表をする機会が得られ、日本の学会活動の成果を諸外国からの参加者にも知っていただくことができました。この学会では各国の参加者の発表も活発になされており、この分野の地域特殊性や、情報交換と連携協力の重要性を再認識いたしました。この次のISMRの学術大会は、来年度（2010）にイタリア北部のジェノヴァで行われる予定となっています。

国際交流委員会では、今後も中国や韓国をはじめアジア地域での連携強化を目指したいと考えております。本学会は登録人数でも世界の中で有数の規模を誇っており、我々の学会の活動を海外に発信すべくネットワークを張り巡らせて、本学会の更なる発展のために、委員会の先生方とともに努力していく所存です。

医療委員会



委員長 松浦正朗
(福岡歯科大学教授)

2009 年度からの日本顎顔面補綴学会医療委員会の委員は鶴見大学の佐藤淳一先生、愛知学院大学の下郷和雄先生、福岡歯科大学の高橋 裕先生、九州歯科大学の鰐見進一先生の 4 名の前委員に留任していただきました。

医療委員会では昨年から本邦におけるエピテーゼ治療の現状の調査、および同じく上顎顎補綴治療の現状の調査を実施しており、エピテーゼ治療に関しては報告を兼ねた論文を本学会誌に投稿する段階に至りましたが、上顎顎補綴治療に関しては現在取り纏め中であり、おなじ顔ぶれで審議したいという思いで留任をお願いしました。

本邦における上顎顎補綴治療の現状については本年 6 月の学会にて報告後、論文として調査報告をまとめる予定です。

また現在、顎補綴の保険点数の改訂のための医療技術評価提案書を日本歯科医学会へ提出の準備を進めています。顎顔面補綴治療のガイドラインの策定を学会で取り組んでいますが、これに合わせて医療委員会でも料金体系を見直し、適正な料金獲得に向けて改訂を申請する予定です。

広報委員会



委員長：小野高裕
(大阪大学准教授)
委 員：熊倉勇美(川崎
医療福祉大), 古賀千尋(久
留米大学), 小山重人(東
北大), 隅田由香(東京医
歯大), 山口能正(佐賀大)
幹 事：城下尚子(大阪大)

前期に引き続いて広報委員会を担当させていた

だきます。今期も外科系、補綴系、歯科技工系、言語聴覚系とさまざまな分野の委員にご協力いただき、本学会の情報を発信するだけでなく、他分野の情報を積極的に取り入れてニュースレターを通して会員の皆様にお届けしたいと存じます。もう一つの重要な広報手段である学会ホームページは、一層の充実が必要と考えております。前期は認定医名簿を設けましたが、今期は懸案の一般向けページをオープンし、顎顔面補綴を必要とする人に「ここにこんな専門家がいる！」と知りたいことは、今期の学界全体の課題である法人化とも密接にリンクしてきます。その他、用語集や医療関係者向けの情報ももっと増やしたいと思います。学会員の皆様にご協力ををお願いすることになると存じますが、よろしくお願ひいたします。

認定医制度検討委員会



委員長：石上友彦
(日本大学歯学部教授)
委 員：伊藤創造(岩手
医大), 佐々木啓一(東
北大), 永井栄一(日本
大), 服部正巳(愛知学
院大)

近年、各専門分野における認定医、専門医の提示は社会貢献の一端として必要であるばかりでなく、高い社会的評価を受けております。

顎顔面補綴学会は平成 21 年度より日本歯科医学会認定分科会として承認され、社会に顎顔面補綴の専門性を周知するための認定医制度の啓発活動も益々重要となってきました。平成 19 年より始まった認定医制度も平成 21 年 4 月現在で、83 名の認定医が誕生しております。暫定期間も残り 1 年間程度となり、暫定期間の締め切りは平成 21 年 6 月 30 日と 12 月 31 日と平成 22 年 6 月 30 日の 3 回となりました。暫定期間終了後の認定医申請は年に 1 度の締め切りとなります。認定医規則や申請方法はホームページに詳しく記載しております。

現在、歯科医師、医師を対象とした認定制度であります。本学会は多岐にわたる専門性を基盤とする学際的分野であり、会員は、歯科医師をはじめ医師、歯科技工士、歯科衛生士など多くの専門職種から構成されており、今後は他職種の認定制度も確立させていきたいと考えております。今後多くの会員が認定医を取得し、ホームページの認定医名簿を充実させ、顎顔面補綴治療を必要としている患者さんにとって吉報となる情報を提供していきたいと思います。また、学会がさらに活性化し、社会に周知させていくためにも、学会誌およびホームページなどを通じて広く会員に認定医制度を理解して頂き、有資格者は是非とも申請して頂けることを希望いたします。

法人化準備委員会



委員長 舘村 卓
(大阪大学准教授)

2009年から2年間、法人化準備委員会を担当します委員は、石上友彦先生、尾澤昌悟先生、谷口尚先生、山森徹雄先生、小生です。石上先生、谷口先生には、新参の館村へのご指導をお願い申し上げたく、引き続き留任のご無理をお聞き入れいただきました。

既に多くの学会が、法人化するか法人化に向けた活動を行なっています。法人化することのメリットの一つは社会的に承認を得ることで財務上のリスクマネジメントが可能になることがあります。とくに個人に財務上の責任が及ぶことの回避と公的資金の導入を容易にすることができます。法人化していない学会であっても、会則を作り、事務局を持ち、会計報告を行い、多様な市民活動等も行ない、見かけ上は法人化学会と大差ないようになります。しかしながら、法的には同好の士の「寄り集まり」であり、言わば大学に届出していない学生の「同好会」と変わらないものです。同好会(学会)内で活動を閉じているのであれば

公的な認可は必要ないですが、対外的な活動や資金の借り入れは無限の個人責任(学会会長の責任)となり、さらに公的資金の受け入れは難しくなります。法人化することにより、財務上の個人の責任の範囲は限定され(実質は無い)、さらに私たちが学会として予定する多様な社会活動を広く展開するために、学会が有する以上の資金を必要となる場合や助成金を得る場合も有利になります。

既に法人化は「するかしないか」ではなく、どのような法人に、どのようにしてするのかの段階に移ったと思っております。NPOか、社団法人か、定款は、学会員への周知は、等々を、いつ頃までにするのか、というような行動論を煮詰める必要に迫られています。会員諸兄のご意見を頂戴しながら、速やかに法人化に向けた行動を行ないたいと思っております。ご協力、ご支援をお願いしたいと思っております。

会則検討委員会



委員長 塩入重彰
(国立病院機構
横浜医療センター)

引き続き会則検討委員長を仰せつかりました。本委員会は主目的が法人化に伴う会則の大幅な改訂を念頭に置かれて設置されましたので、法人化準備委員会を核として、それに法人化にも造詣の深い大畠昇先生(北海道大学)と委員長の私が加わった構成となっております。勿論、法人化以外にも会則の検討が必要な事項がありましたら、会員各位からご提案賜れば幸いです。

構成メンバーは以下の通りです。

塩入重彰(委員長)、石上友彦、大畠昇、尾澤昌悟、館村卓、谷口尚、山森徹雄

平成 20 年度優秀論文賞受賞者の声

上田康夫

北海道大学大学院

歯学研究科口腔機能学講座

リハビリ補綴学教室

「耳介形状データベース の構築 —形状データの 収集と生体再建用テンプ レートの試作—」

(顎顏面補綴 31 卷 1 号)

この度は、日本顎顔面補綴学会平成20年度優秀論文賞という大変に名誉な賞をいただき、誠にありがとうございます。私は、もともとは前教授の内山洋一先生のもと20年以上前から歯科用CAD/CAMシステムの開発や3次元CTのデータを元にした手術シミュレーション用の頭蓋骨模型の作製を手がけてきました。現教授の大畠 昇先生が就任され顎顔面補綴を専門分野としていたことからこれらの技術の顎顔面領域への幅広い活用を模索しておりました。そのような中、交通事故により片側の耳介を欠損された患者さんが私のもとを訪れました。当初は事故により欠損した部位の歯冠補綴を主訴としておりましたが、ふとしたことから「耳も作れませんか?」との患者さんの問い合わせに「やってみましょう」と答えた私の一言からすべてが始まりました。当時、CTのデータはかなり自由に扱えるようになっており積層造形装置も手元で稼働していたことから、耳介形状そのものの再現には自信がありました。このため比較的早い時期に単色のシリコーン製エピテーゼの試作にこぎ着けました。しかしそこからが問題は山積で、周囲の皮膚の色合いに合わせた着色方法、インプラントを用いない接着テープや接着剤を利用した装着方法、個々の患者さんに合わせた耳介形状の設計方法、より生体に近い感触を求めた素材の選択など、私の不勉強に対し、学会の諸先輩方からかつて苦労されて取り組んでこられた成果を惜しみなくご助言、ご援助いただくことができたおかげで、ようやくここまでやってこられたも

の感謝いたします。今後はこの成果を元に、誰もが従来よりも容易かつ安価にエピテーゼの製作ができる環境を構築していきたいと考えております。今後とも、学会等の場を通じて皆様からのご意見・ご評価をいただけましたら幸せに存じます。

書籍紹介

口腔顎顔面技工 文部科学省委託事業 平成 20 年度専修 学校教育重点支援プラン



本の内容は、歯科技工士学校の学生に対して、口腔顎顔面技工を行う上の基本的知識から始まり、補綴系装置では、顎義歯、エピテーゼ等の説明、治療装置では、骨折等に用いる副子、栓子、放射線治療捕縄装置、スピーチエイド等の説明が記載されている。また学生が授業で製作する実習帳は、眼窩エピテーゼ、顎義歯、Hotz型口蓋床の製作方法について記載され、学生実習に役立てることを目的としている。

入手方法：下記へご連絡ください。

学校法人 吉田学園医療歯科専門学校

〒 060-0063 札幌市中央区南 3 条西 1 丁目

TEL (011) 272-3030
FAX (011) 272-3012
歯科技工学科 佐々木明美
E-mail: a-sasaki@yoshida-g.ac.jp
(山口能生)

カナダ研修便り

堀 一浩

大阪大学大学院歯学研究科
顎口腔機能再建学講座歯科補綴学第二

今年4月より、10週間の予定でカナダにあるiRSM (Institute for Reconstructive Sciences in Medicine) に来ています。場所はエドモントン市の西側、世界最大級のショッピングモールと言われるウエストエドモントンモールのすぐそばにある Misericordia Community Hospital の一角を占めています。ここでは、ISMR (International Society of Maxillofacial Rehabilitation) のSecretaryである、Dr. John Wolfaardt 先生が補綴専門医として治療・研究をされており、その内容を研修させていただいている。

こちらには、University of Alberta hospitalなどの近隣の病院だけではなく、アルバータ州の各所から頭頸部腫瘍術後の患者が集まってきており、その補綴治療・再建治療が集中的に行われています。顎補綴治療はインプラントを用いたものが大半であり、その成功率を保つためにIMRTや高圧酸素療法などのオプションを積極的に利用しています。また、骨再建とインプラント補綴が行われた後には、1, 3, 6, 12か月後、その後には毎年リコールを行い、補綴装置とインプラントのフォローアップをします。さらに、施設開設当初より行われている3Dラピッドタイプモデリングは、その豊富な経験を生かして、インプラント治療だけではなく、エピテーゼ治療、下顎骨や耳介・頭蓋の再建術や心臓外科など幅広い分野に対する応用が行われており、4台もある3Dプリンターが常に稼働している状態です。また、BAHAを用いた伝音性難聴に対する治療なども

行われています。

研究面では5つのラボを有しており、3Dモデルを用いたMedical Modeling Researchをはじめ、術後患者に対する咀嚼嚥下・構音機能評価、BAHAなどの骨伝導増幅装置の研究、生体力学に関する研究などを行っているチームがあります。最先端の機器がそろっており、それぞれのチームが競い合って活発な活動が行われています。

ここでは補綴専門医、形成外科医、クリニカルアシスタント、衛生士、技工士、アナプラストロジスト、言語聴覚士、Audiologist、Engineer、Designerなど多職種がプロフェッショナルな活動をしており、究極の分業集団だと思います。治療費はすべて保険でカバーされることもあり、最先端の機器や術式を惜しげもなく注ぎ込むことのできる環境は本当にうらやましい限りです。顎顔面補綴治療にたずさわる一員としてその内容に感動しているだけではなく少しでも輸入できたら、と感じています。最後になりましたが、今回の研修の機会を与えていただいた前田教授と小野准教授にお礼を申し上げます。



(上) Wolfaardt 教授と筆者 (下) iRSM 外観

関連学会の案内

●第21回日本嚥下障害臨床研究会

開催日：7月4日（土）～5日（日）

会 場：札幌プリンスホテル

会 長：鄭 漢忠（北海道大学）

問合せ先：北大・大学院・歯・口腔病態学

TEL：011-716-1161

Newsletter No. 9

Maxillofacial Prosthetics

●第15回日本摂食嚥下リハビリテーション学会
学術集会

開催日：8月28日（金）～29日（土）

会 場：名古屋国際会議場

大会長：馬場 尊

問合せ先：藤田保衛大

TEL：0562-93-2167

●第39回日本口腔インプラント学会学術大会

開催日：9月25日（金）～27日（日）

会 場：大阪国際会議場

大会長：市川哲雄

問合せ先：徳大・口腔顎顔面補綴

TEL：088-633-7374

●日本咀嚼学会第20回記念大会

開催日：10月2日（金）～4日（日）

会 場：福岡県歯科医師会館

大会長：沖本公繪

準備委員長：寺田善博

問合せ先：（日本口腔保健協会）

TEL：03-3947-8761

●第54回日本口腔外科学会学術大会・総会

開催日：10月9日（金）～11日（日）

会 場：札幌コンベンションセンター

大会長：戸塚靖則

問合せ先：北大・口腔顎顔面外科

TEL：011-706-4313

●第19回日本磁気歯科学会学術大会

開催日：11月14日（土）～15日（日）

会 場：岩手医科大学60周年記念館

大会長：石橋寛二

準備委員長：伊藤創造

問合せ先：岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座

●第31回日本歯科技工学会学術大会

開催日：11月22日（日）～23日（月）

会 場：アクロス福岡

大会長：斎藤武史

問合せ先：福岡県歯科技工士会

TEL：092-751-0104

●第28回日本口腔腫瘍学会総会

開催日：2010年1月28日（木）・29日（金）

会 場：東京 学術総合センター

大会長：小村 健（東京医歯大・顎口腔外科）

コンテンツ

新理事長・委員長活動所信	1
新理事長挨拶	1
各委員会メンバー紹介	2
平成20年度優秀論文賞受賞者の声	6
書籍紹介	6
カナダ研修便り	7
関連学会の案内	7

・皆様のご意見をお寄せください。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 小野高裕

委 員 熊倉勇美, 古賀千尋, 小山重人

隅田由香, 山口能正

幹 事 城下尚子

TEL:06-6879-2954, FAX:06-6879-2957

E-mail:ono@dent.osaka-u.ac.jp

〒565-0871 吹田市山田丘1-8

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座